

# **足元、生産好調な鋁工業3業種**

鋁工業指数2月速報までの整理

はん用・生産用・業務用機械工業  
～ 電子部品・デバイス工業 ～  
輸送機械工業

平成27年4月

調査統計グループ

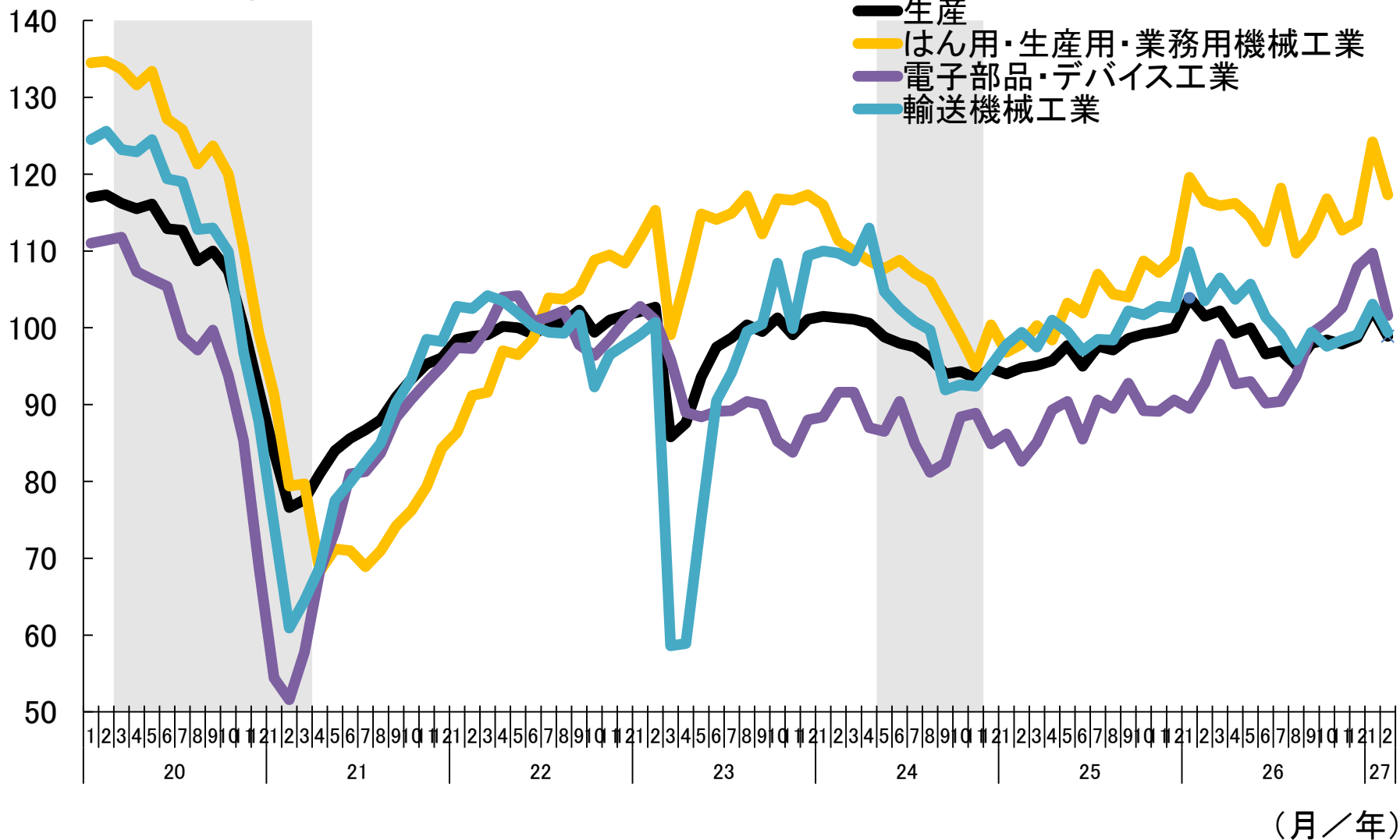
経済解析室

# 3業種の生産の概況

- 鉱工業生産指数は、昨年の消費増税のショックを乗り越えて、「緩やかな持ち直しの動き」を見せている。
- この鉱工業生産の持ち直しをけん引しているは、加工型業種の3業種である「はん用・生産用・業務用機械工業(以下、一般機械類工業)」「電子部品・デバイス工業」「輸送機械工業」の3業種
- とともに、昨年の7月、8月を底に、生産指数が持ち直してきている。
- 一般機械類工業と電子部品・デバイス工業の生産指数は、リーマンショック後の平成21年以降では、2度目の盛り上がり(昨年の消費増税前の盛り上がりよりも高いレベル)
- 輸送機械については、上昇方向ではあるが、生産の水準自体は、昨年の駆け込み需要期や前回の景気循環の「山」(平成24年4月)の水準に比べると、低い。

# 鉱工業生産指数の動向

(22年=100、季節調整済)



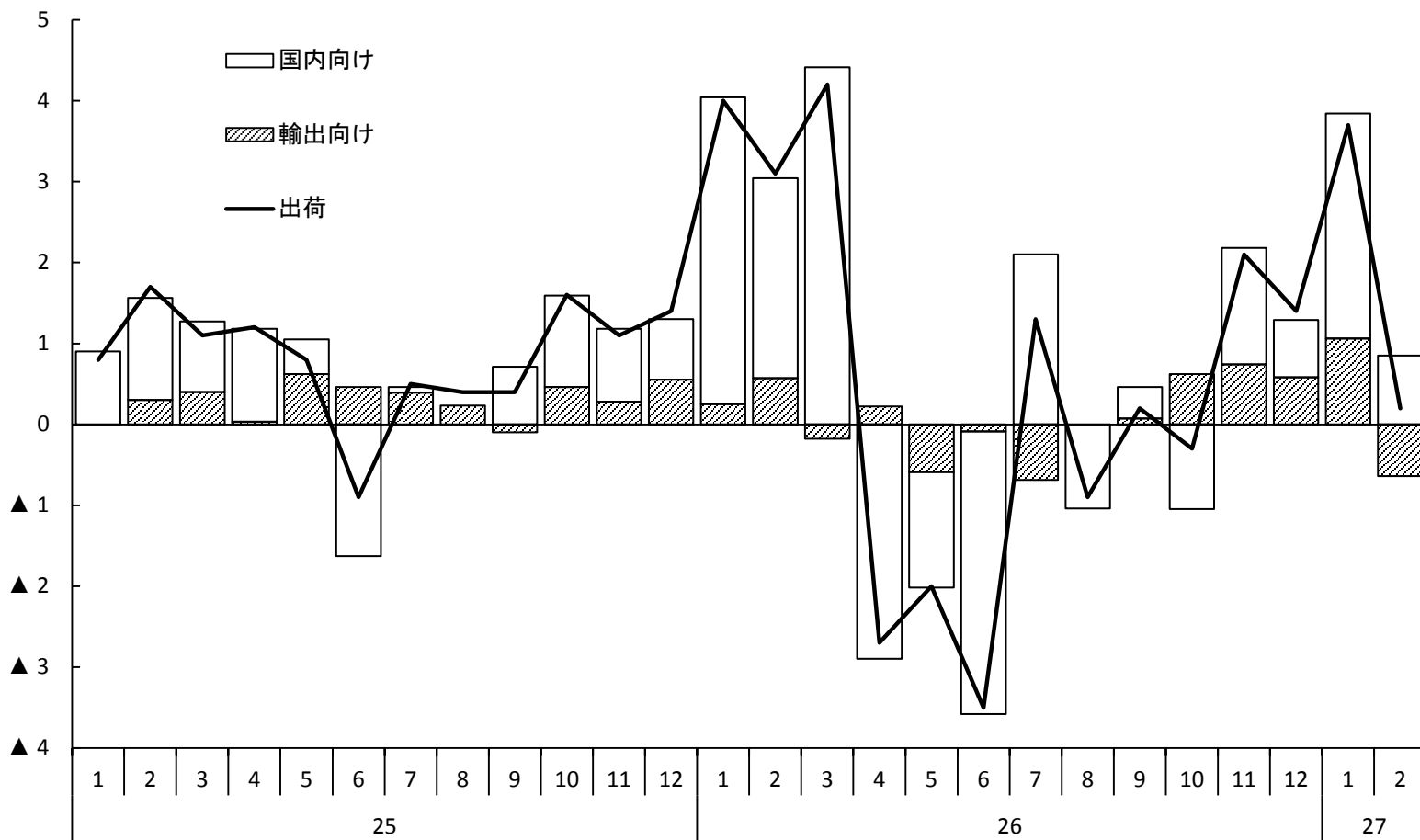
(注)シャドー部分は景気後退局面。24年5月～11月は暫定。

# 3業種の出荷内訳の概況

- 3業種とも、昨年の増税前後で輸出向け出荷も振るわず、国内向け出荷の低迷と相まって、落ち込みが大きくなった。
- しかし、輸送機械工業と電子部品・デバイス工業については、夏場から輸出向け出荷が先行して上昇方向に転じている。
- はん用・生産用・業務用機械工業では、輸出向け出荷が秋口から上昇方向に転じ、全体を押し上げる寄与も大きい。
- 輸送機械工業では出荷については、昨年1終わりから国内向けが主役。他の2業種では、1月まで輸出向けも強かったが、2月には国内向けが強く、輸出向けは低下。

# はん用・生産用・業務用機械工業 出荷先別寄与度分解(後方3か月移動平均)

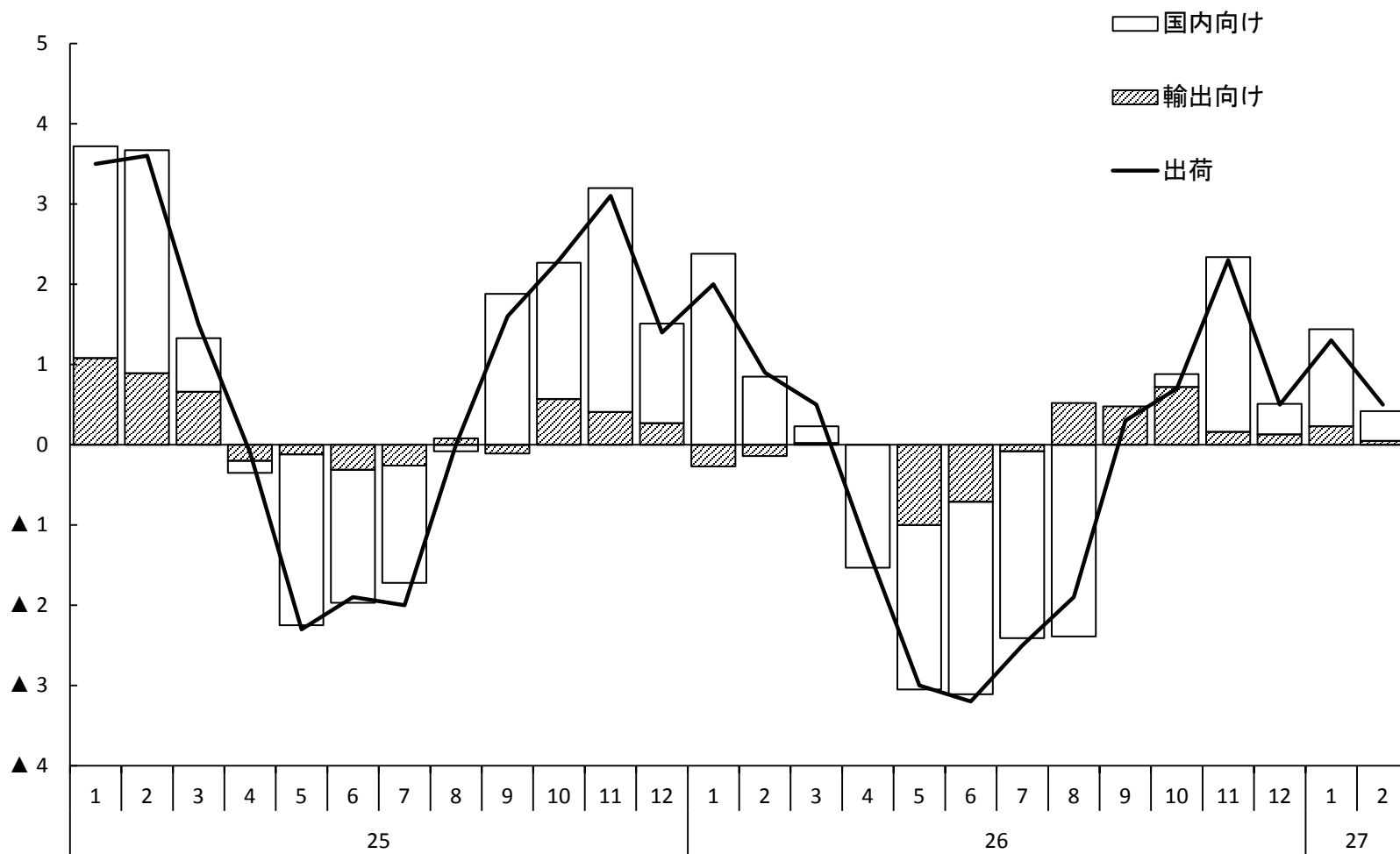
(季節調整済、前月比、%、%  
ポイント)



# 輸送機械工業

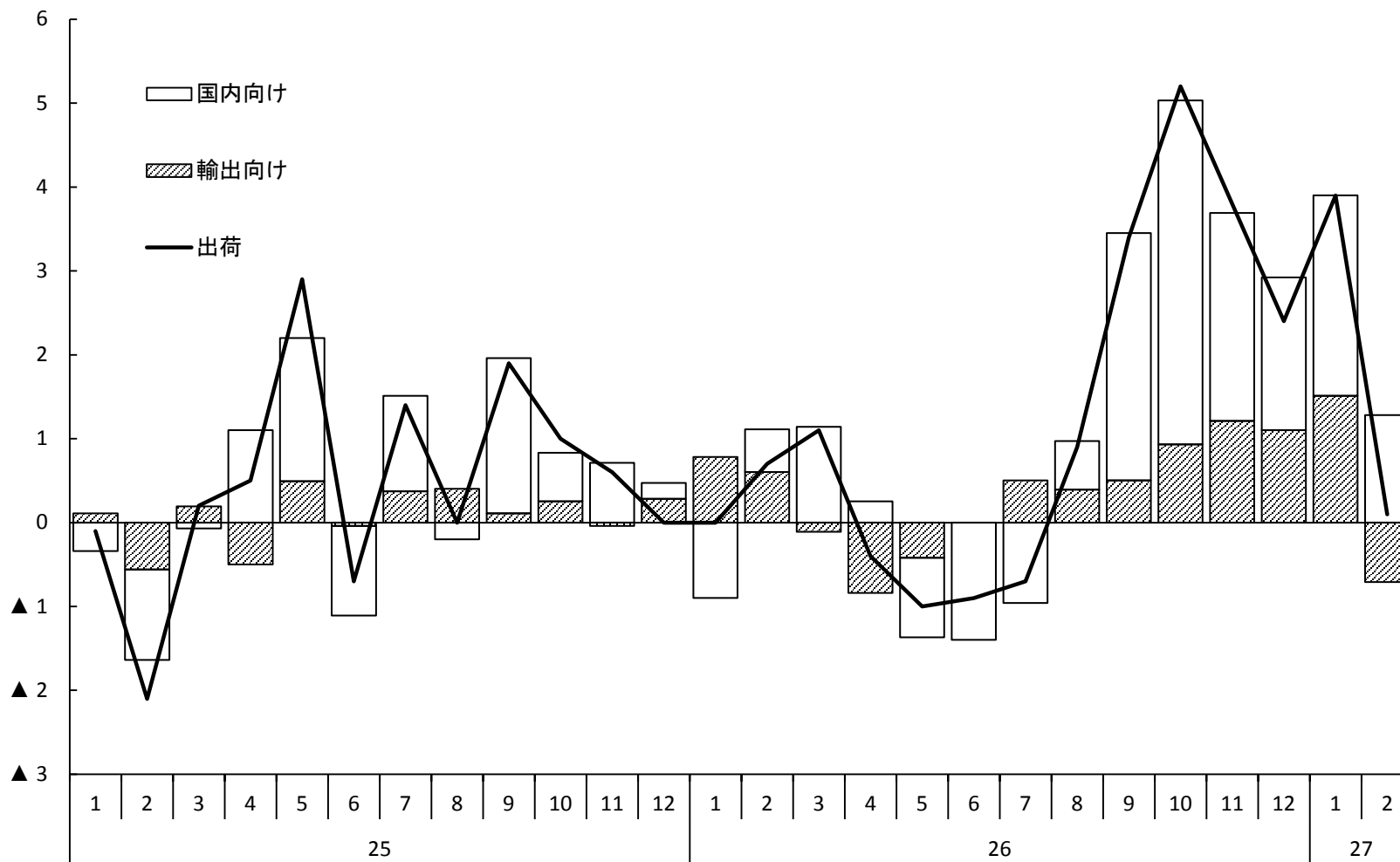
## 出荷先別寄与度分解(後方3か月移動平均)

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



# 電子部品・デバイス工業 出荷先別寄与度分解(後方3か月移動平均)

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



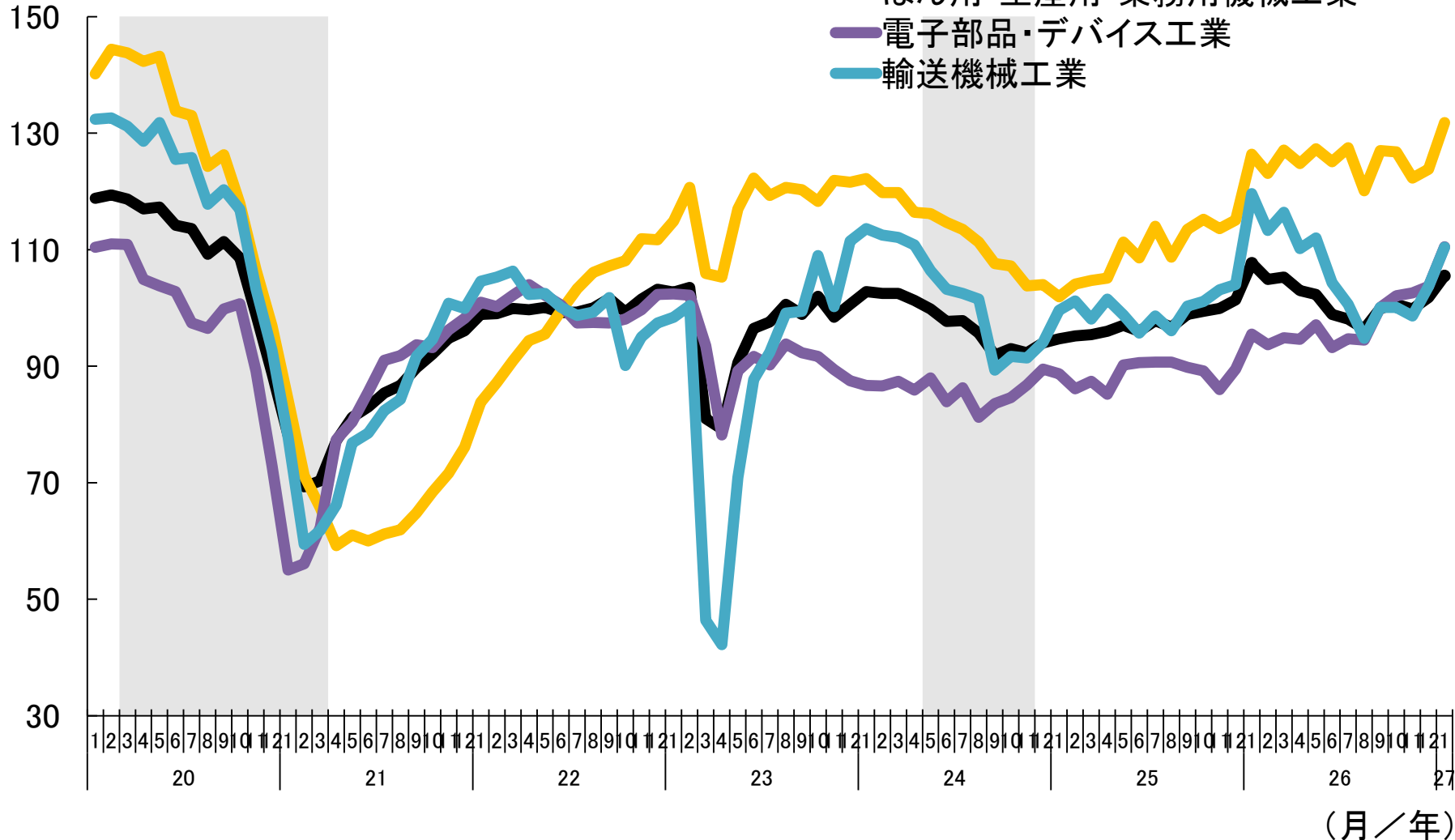
# 3業種の稼働率の概況

- 3業種の年末の国内向け出荷の好転から、稼働率も急上昇
- 特に、はん用・生産用・業務用機械工業の稼働率(平成27「年1月分)は、リーマンショック後の最高値。電子部品・デバイス工業も、水準として非常に高い訳ではないが、最高レベル。
- 輸送機械工業は、生産と同様に、景気の山の時期や昨年の駆け込み期に比べると稼働率水準は低いが、1月まで急上昇中。



# 稼働率指数の動向

(22年=100、季節調整済)

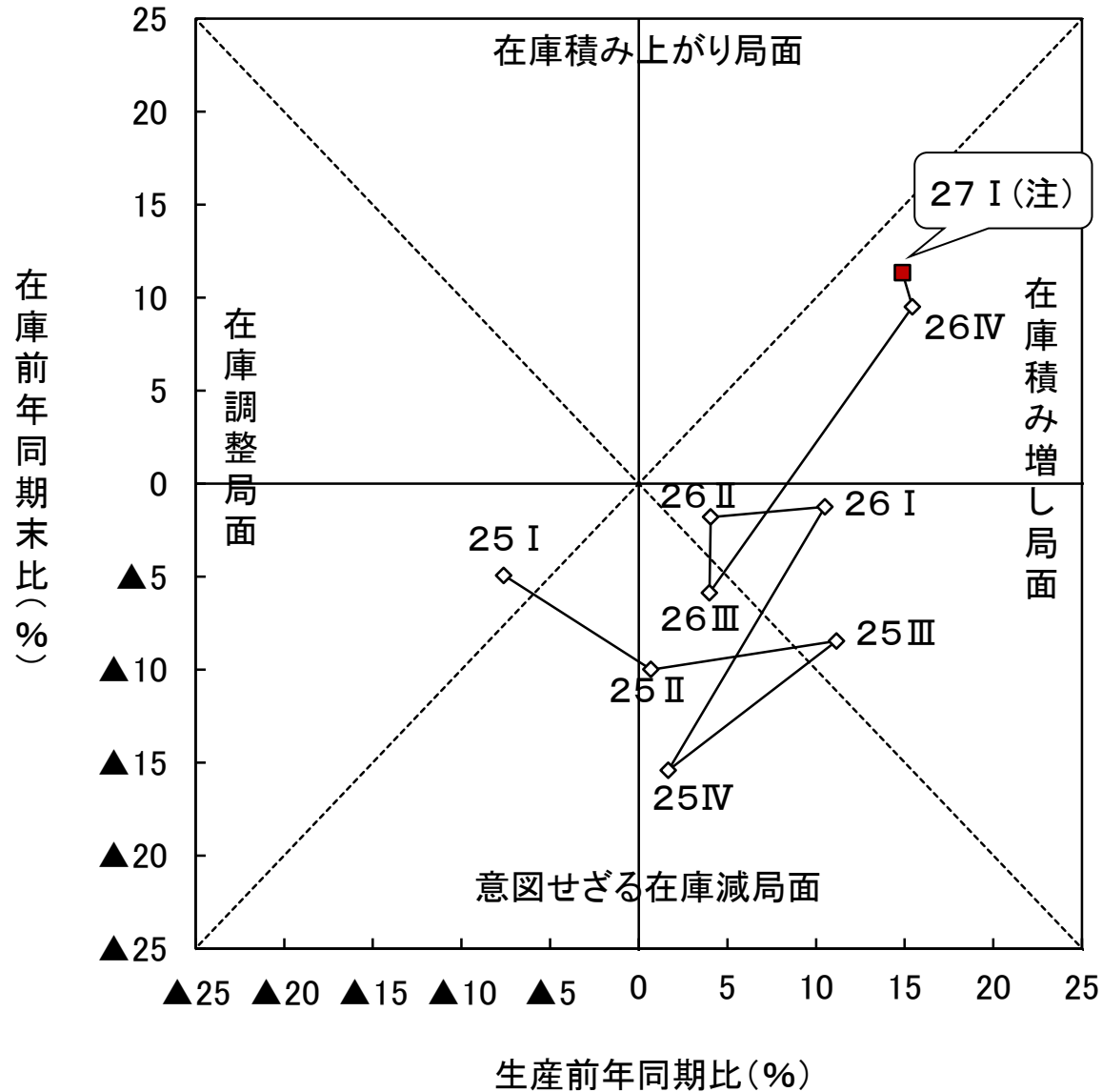


(注)シャドー部分は景気後退局面。24年5月～11月は暫定。

# 3業種の在庫循環の概況

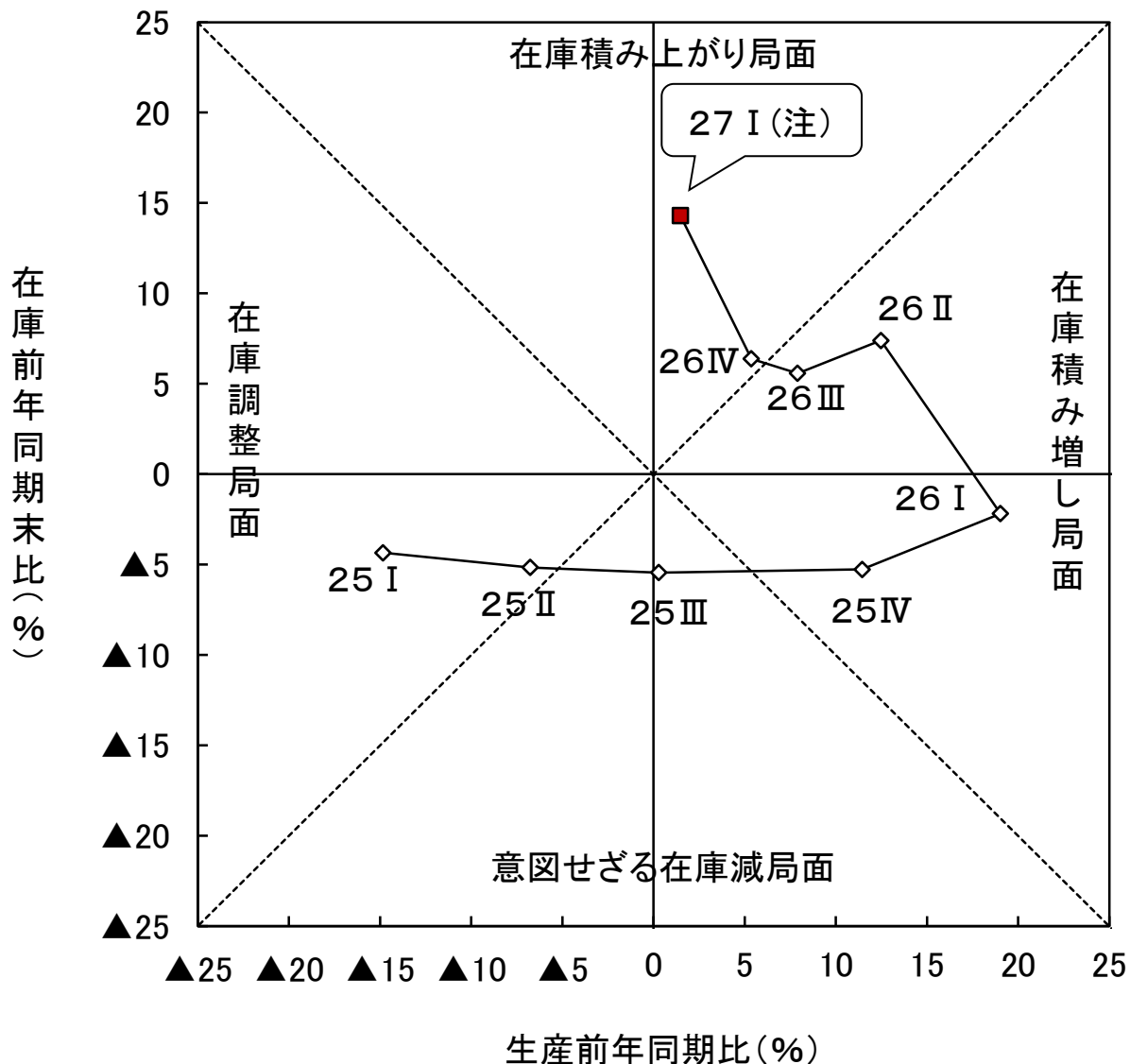
- 電子部品・デバイス工業は、まだ「在庫積み増し局面」であり、在庫循環という点では、まだ生産調整が必要ということではない
- はん用・生産用・業務用機械工業では、生産がまだ前年レベルよりも高いこともあるし、在庫増に規制対応のための在庫積み増しなどがあるので、在庫の前年上昇幅については、割引必要あり
- 輸送機械については、前年の生産や在庫水準と比較すれば、生産が既に調整過程に入っているが、在庫が明確に減少してきているとは言えない。特に、軽乗用車、小型乗用車の在庫水準が高くなっている。

# 電子部品・デバイス工業の在庫循環図



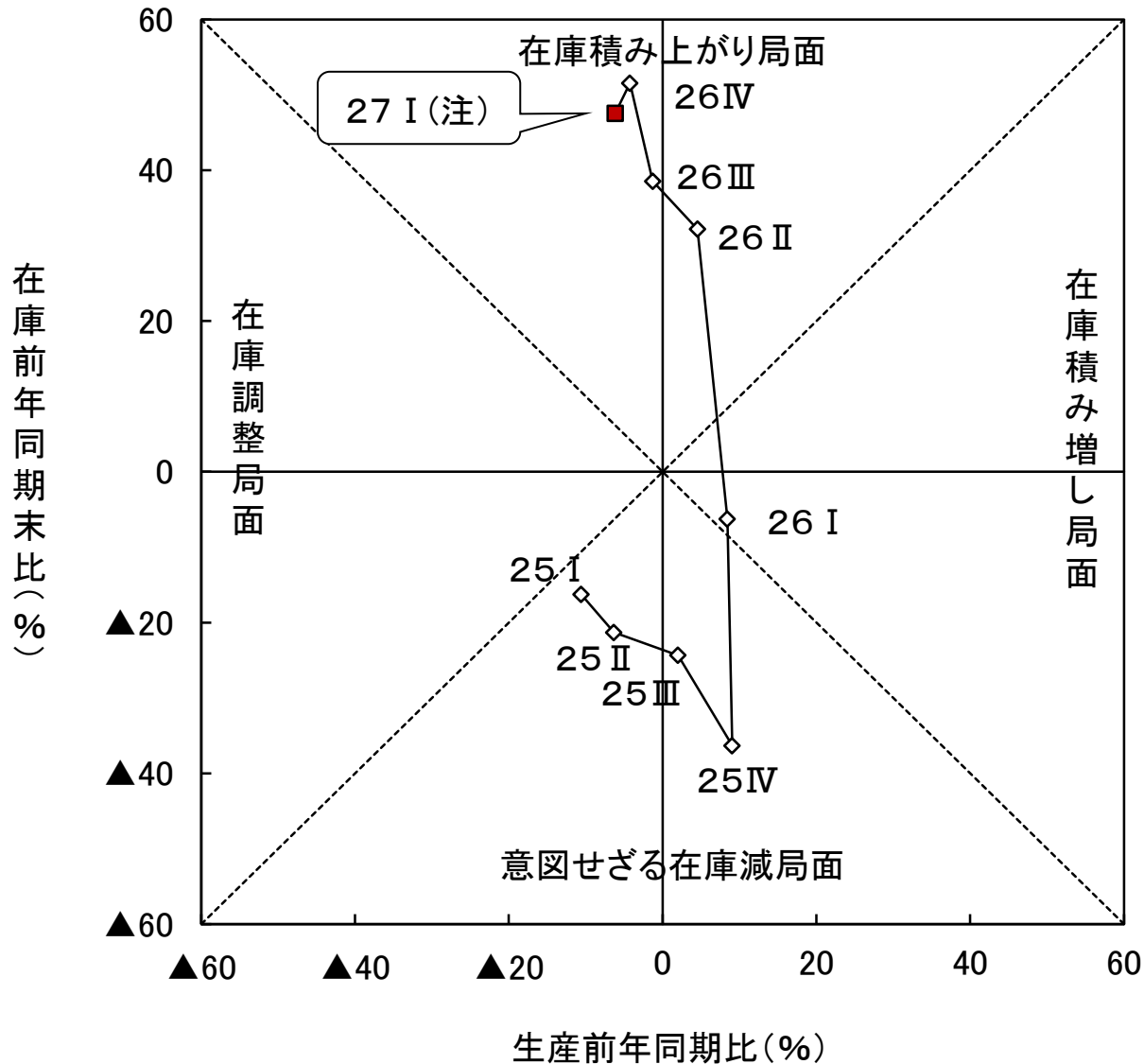
(注)平成27年 I は、生産は1, 2月、在庫は2月の値を使用。  
資料:「鉱工業指数」から作成。

# はん用・生産用・業務用機械工業の在庫循環図



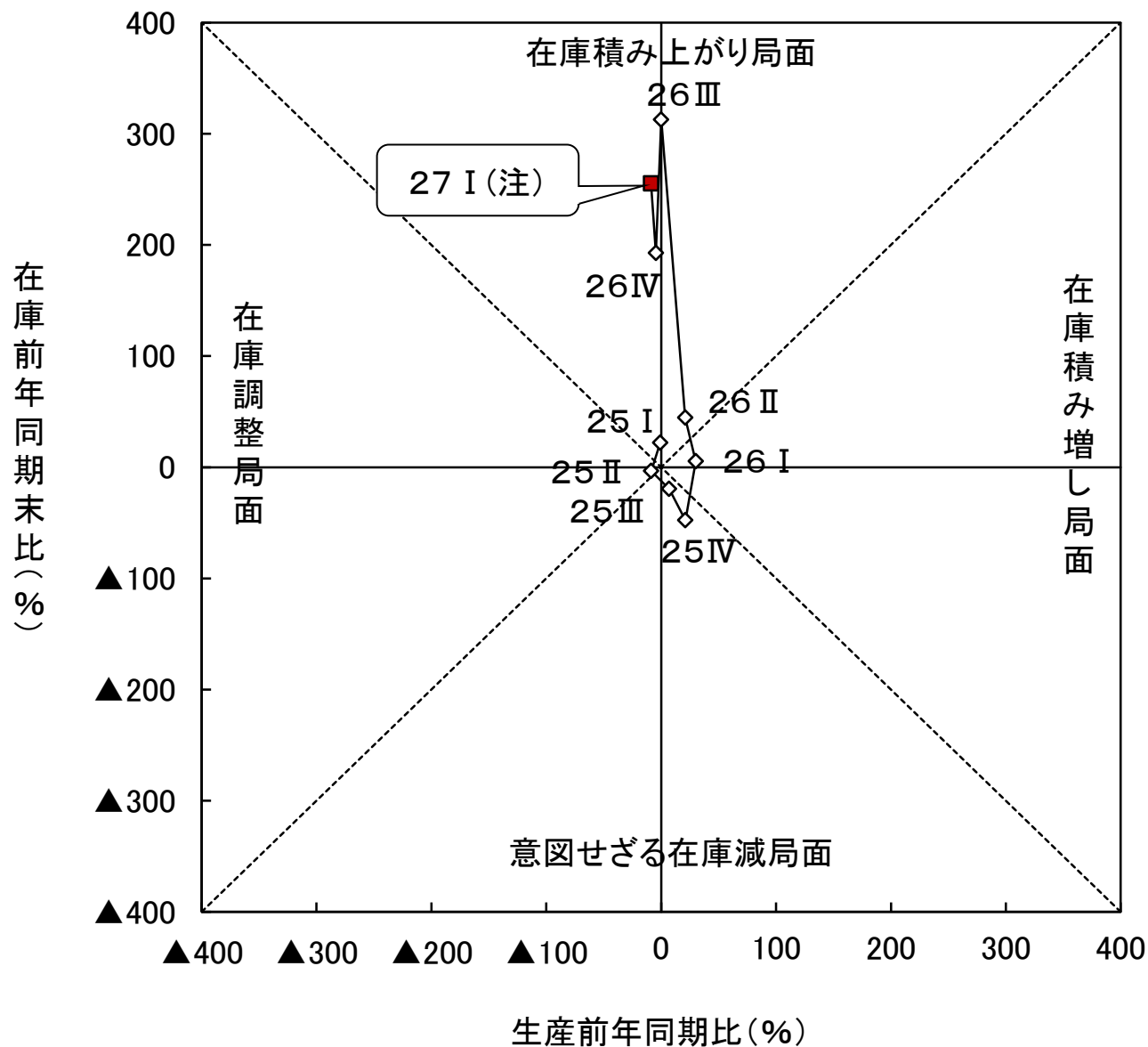
(注)平成27年 I は、生産は1, 2月、在庫は2月の値を使用。  
資料:「鉱工業指数」から作成。

# 輸送機械工業の在庫循環図



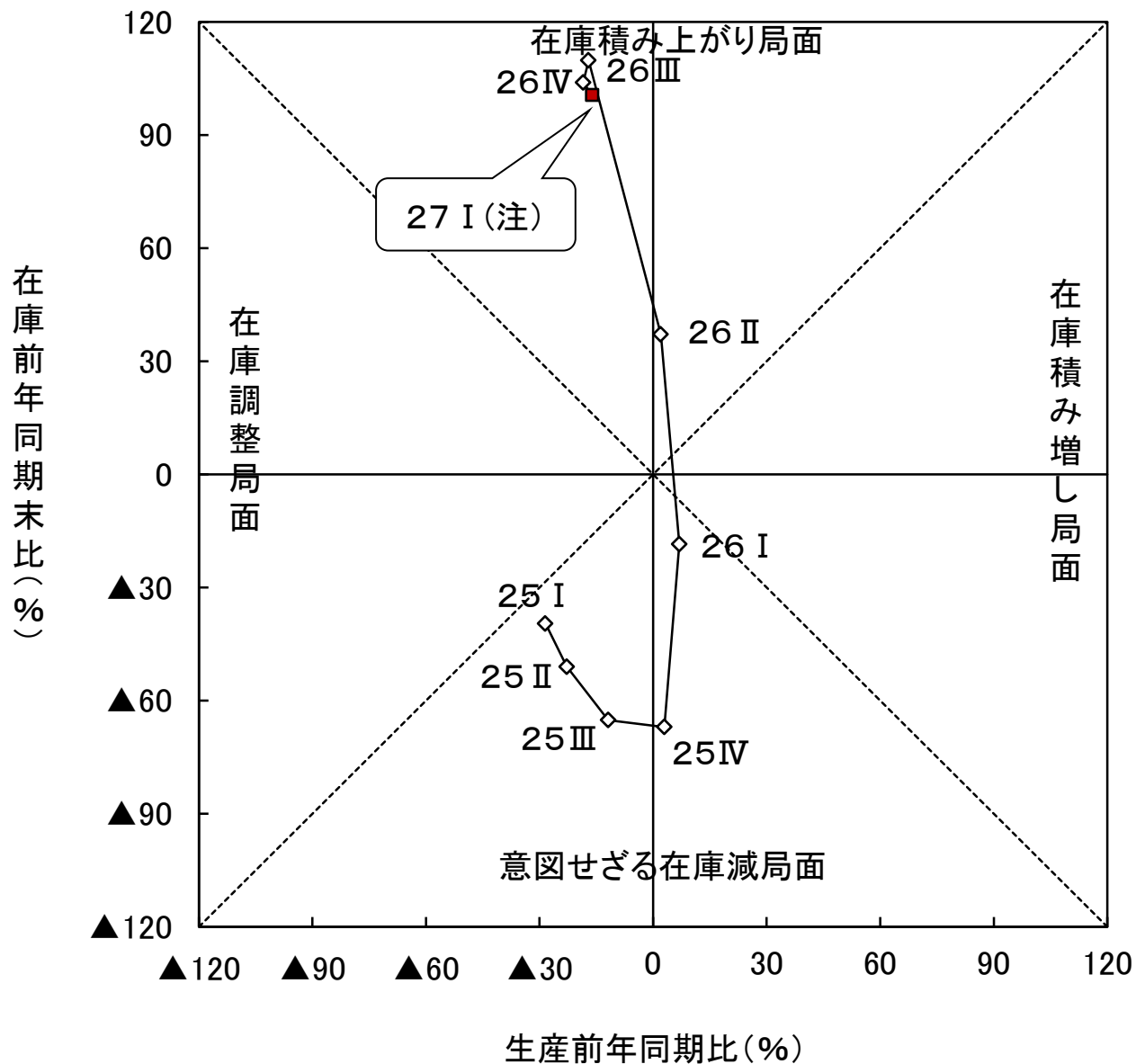
(注)平成27年 I は、生産は1, 2月、在庫は2月の値を使用。  
資料:「鉱工業指数」から作成。

# <参考1> 軽乗用車の在庫循環図



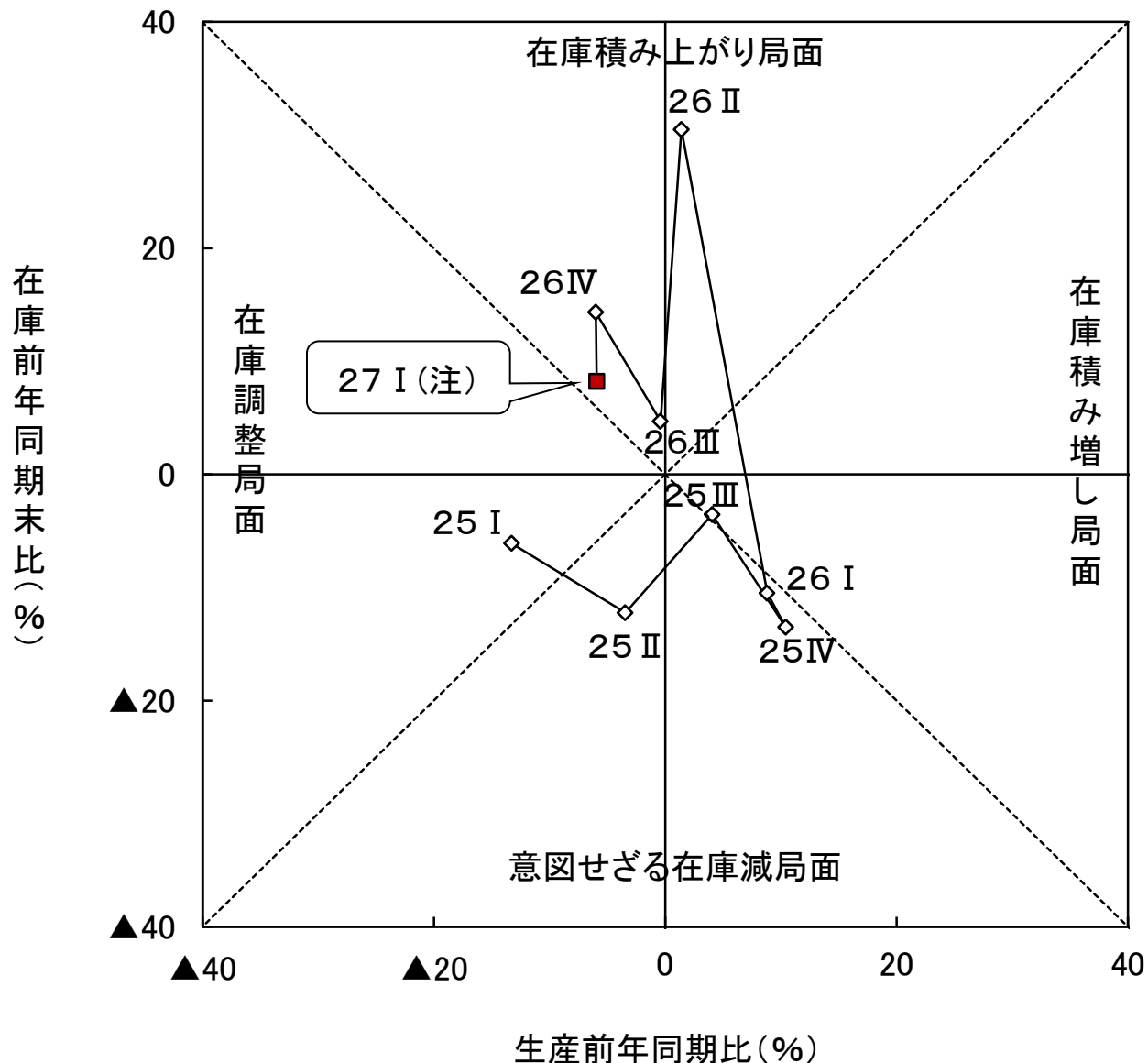
(注)平成27年 I は、生産は1, 2月、在庫は2月の値を使用。  
資料:「鉱工業指数」から作成。

## <参考2> 小型乗用車の在庫循環図



(注) 平成27年 I は、生産は1, 2月、在庫は2月の値を使用。  
資料:「鉱工業指数」から作成。

# <参考3> 普通乗用車の在庫循環図



(注)平成27年 I は、生産は1, 2月、在庫は2月の値を使用。  
資料:「鉱工業指数」から作成。

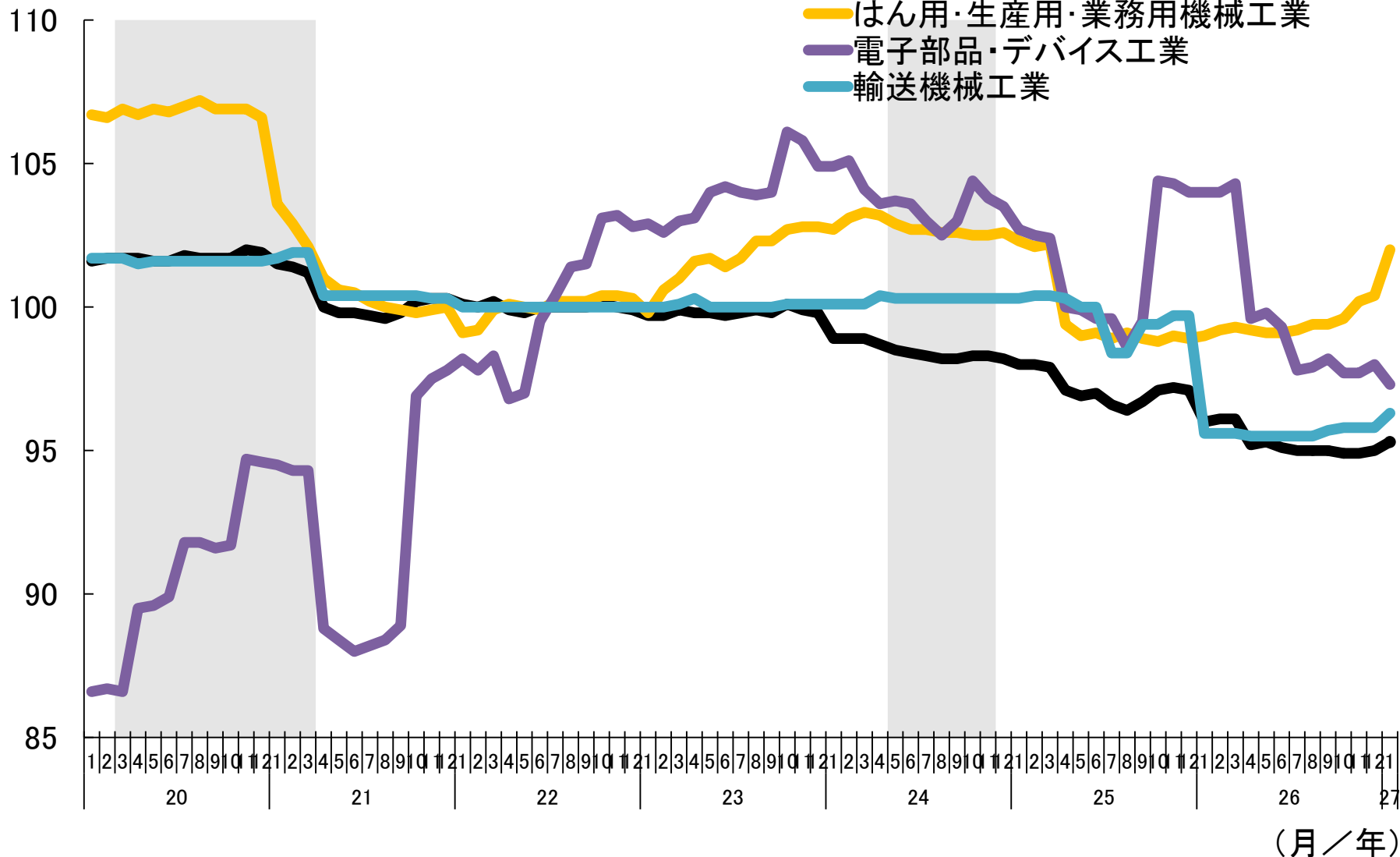


# 3業種の生産能力指数の推移

- 生産能力という視点では、電子部品・デバイス工業は、生産上昇の勢いも高く、在庫の状況もまだ生産増の余地がある状況であるが、ストックとしての生産能力は低下させている状況。それもあって、稼働率の上昇の勢いが強かった
- 昨年後半の生産好調を背景に、はん用・生産用・業務用機械工業は昨年後半から、輸送機械工業も年明けに、生産能力が上昇となっている

# 製造工業生産能力の動向

(22年=100)

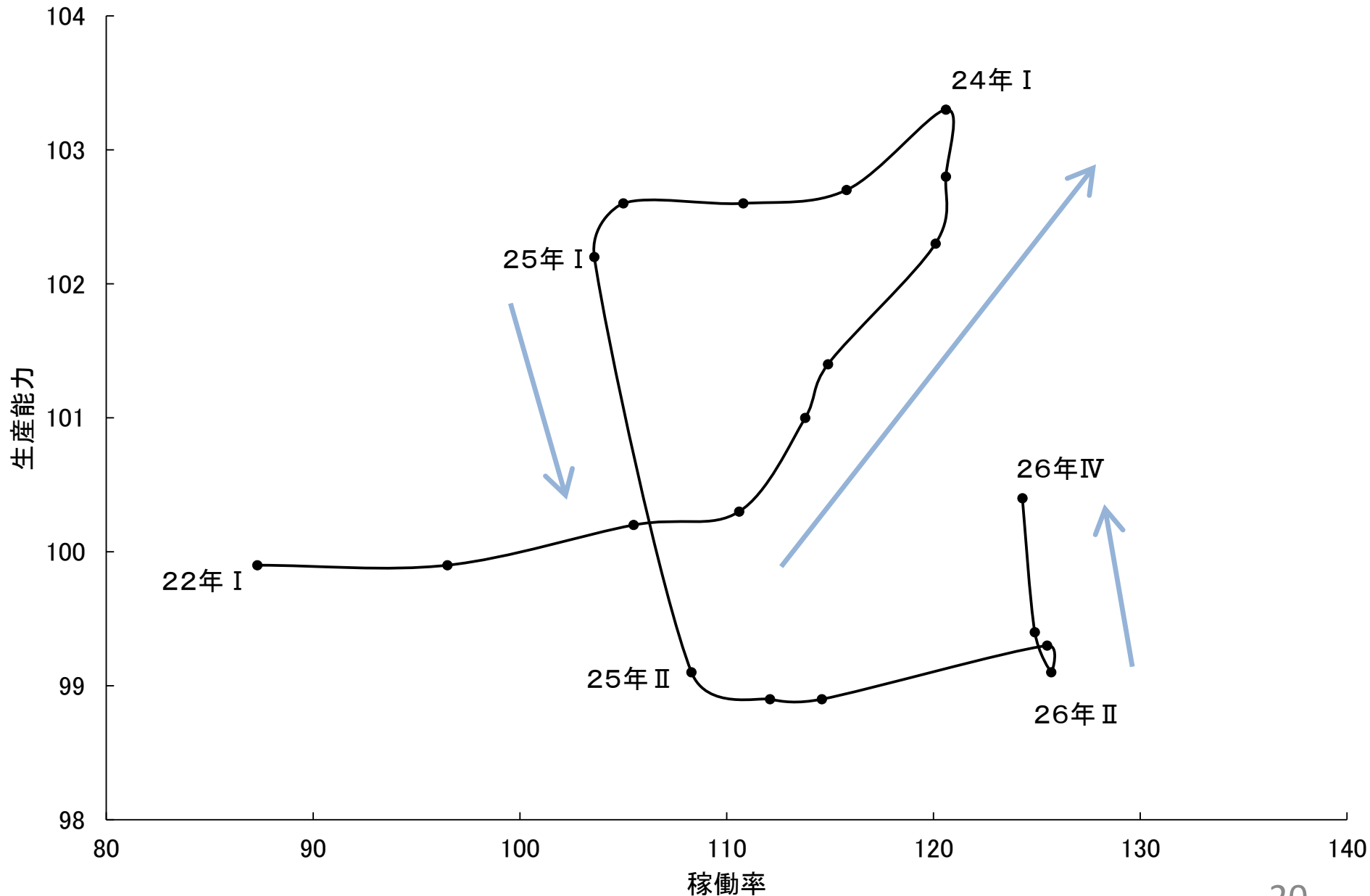


(注)シャドー部分は景気後退局面。24年5月～11月は暫定。

# 3業種の稼働率と能力増強の関係

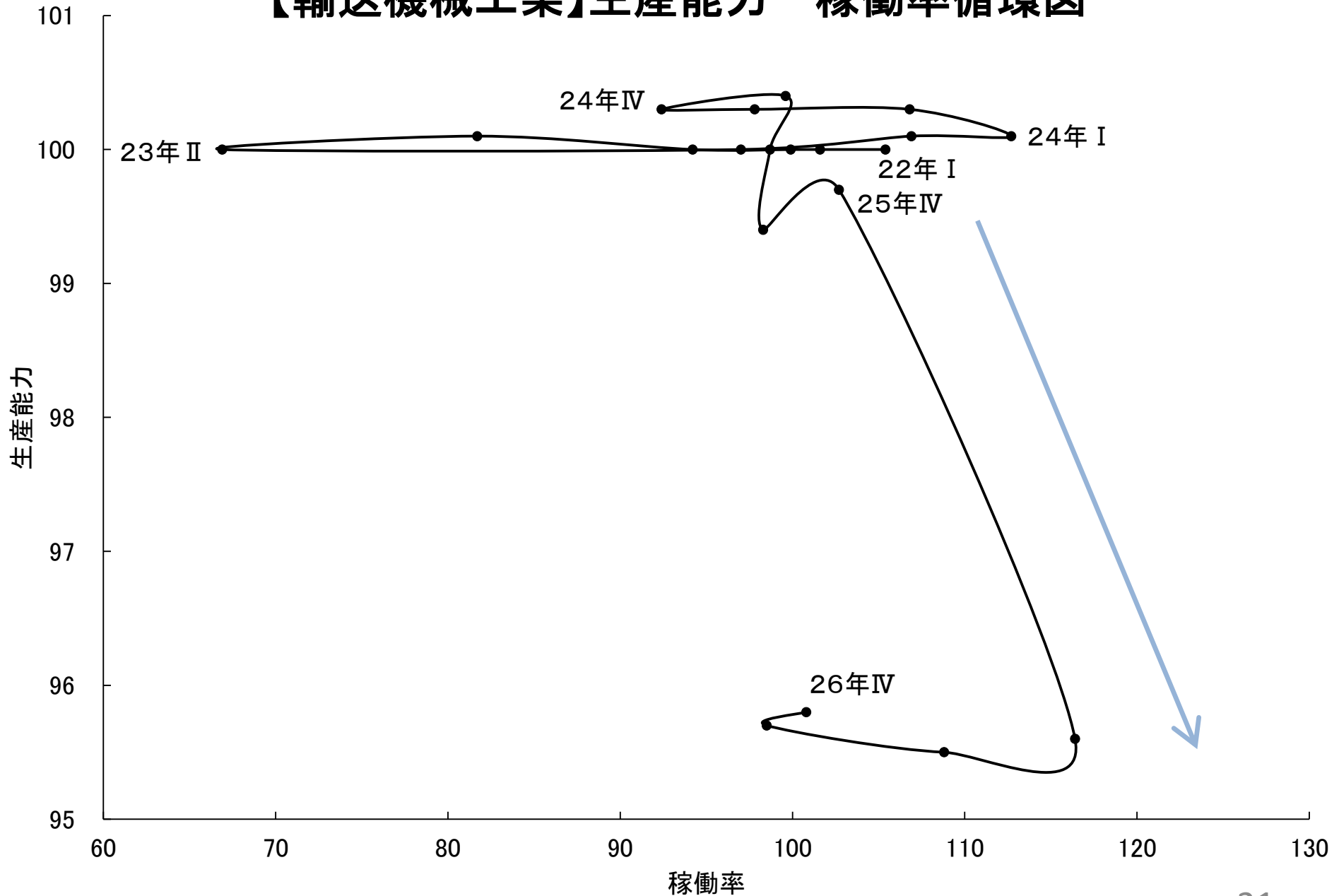
- 平成22年からの5年間ほどの3業種の稼働率と生産能力増強の関係を見てみると、
  - ①はん用・生産用・業務用機械工業は、稼働率が継続的に上昇している期間は、やはり能力を増強させている
  - ②輸送機械工業は、ほとんど生産能力が変動しないが、昨年1月に大きく低下。その後、稼働率は多少下がっているが、能力はごくわずかではあるが上昇。
  - ③電子部品・デバイス工業は、能力の変動が大きい上に、稼働率の上昇と生産能力の上昇が連動していない。

# 【はん用・生産用・業務用機械工業】生産能力—稼働率循環図



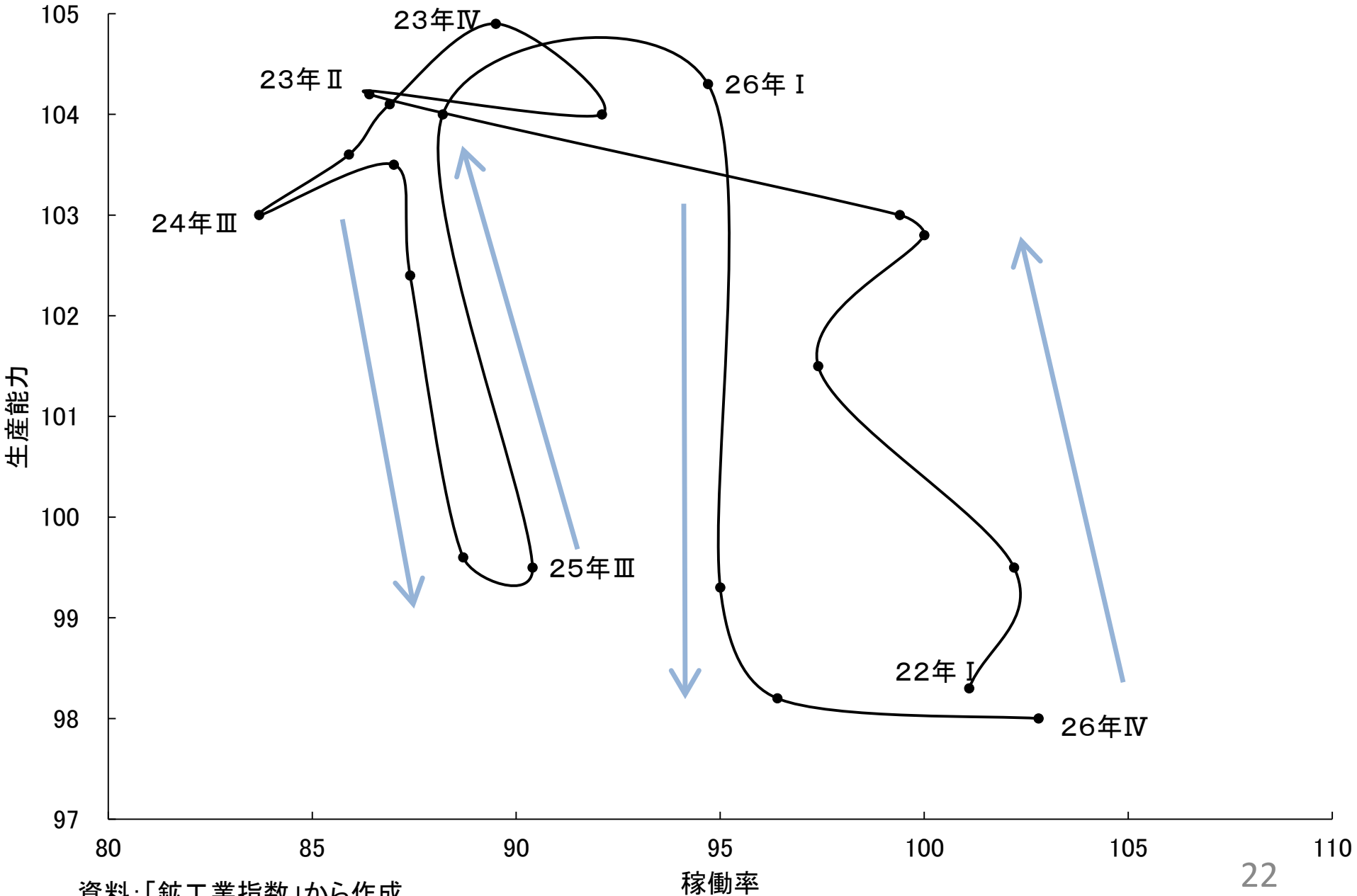
資料:「鋳工業指数」から作成。

# 【輸送機械工業】生産能力－稼働率循環図



資料:「鉱工業指数」から作成。

# 【電子部品・デバイス工業】生産能力－稼働率循環図



資料:「鉱工業指数」から作成。

# はん用・生産用・業務用機械工業 に関する指標の整理

- 生産のレベルも稼働率のレベルも非常に高くなっており、好調
- この好調さは、輸出向け出荷に下支えされ、国内向け出荷も旺盛となっていることによる
- 在庫循環についても、積み上がり局面とはいえ、生産は前年レベルを超えており、在庫水準の高さにも、特殊要因が作用していることを加味すると、必ずしも在庫水準が問題視されるものではない
- この結果、はん用・生産用・業務用機械工業は稼働率の上昇と連動して、生産能力を上昇させている
- 設備に対する需要が、さらなる当該業種の投資(や雇用)を生み出すというポジティブフィードバックが生まれている

# 電子部品・デバイス工業 に関する指標の整理

- 生産の水準は、リーマンショック後では最高レベルとなっているが、稼働率のレベルは、まだ多少余裕がある状況
- この好調さは、輸出向け出荷に下支えされていると同時に、国内向け出荷も旺盛となっていることによる
- 在庫循環については、いまだ在庫積み増し局面であり、生産の前年レベルとの比べて高い水準
- しかし、当該業種のこの5年間の生産能力の上下動は大きく、その変動もかならずしも稼働率と連動していない。今年に入っても低下している状況
- 能力増強投資が活発化するのかは、不分明



# 輸送機械工業に関する指標の整理

- 消費増税後の落ち込みの大きかった生産の水準は、昨年末から回復しつつあるが、まだ水準としてはそれ程高くない。昨年当初に大きく生産能力が下がったので、稼働率水準は、生産水準よりは高い。
- 昨年の夏場は、大きく低下した国内向け出荷を、輸出向け出荷が補っており、年末からは、国内向け集荷がけん引役に
- 在庫循環については、在庫積み上がり局面となり、在庫の前年水準からの超過分が大きくなっており、生産調整が始まっている状況
- ほとんど変動しなかった当該業種の生産能力が、昨年当初に大きく下落したが、下落傾向は続かず、足元では稼働率の変化によらず、横ばいフェーズとなっている
- 在庫や稼働率の状況からすると、今後直ちに、能力増強投資が活発化するのかは、不分明